

献 辞

ここに秋山哲治先生の古稀記念論文集を発刊できて、誠によろこびにたえません。

秋山先生はそのご経歴からもうかがえるように、世間にいわゆる順調な道をへて研究者になられたわけではありません。ご病気、戦争などがあって、先生が法律学の研究に入られたのは三十代もなかばを過ぎてからであり、同志社大法学部において刑法をご担当になったのは四十代のはじめになってであります。以来、先生が同志社法学に発表されたご論文が、その都度、刑法学者の間に論議を呼んだことはよく知られております。先生はなみなみならぬ努力をもって研究に傾倒されたのであります。その姿勢に接して、先生のもとには、この論集が示すように、すぐれた弟子、信頼される後進の研究者が育ちました。

秋山先生は、同志社中学校にご入学以来、その生活の大半を同志社において、また同志社のために過してこられました。その間、法学部長、教務部長などを歴任されました。私たちの今日あるは、先生の熱心、無私のご努力に多くのものを負っております。先生の哄笑は有名です。先生が破顔一笑、どれほど多くの人たち、事柄を心地よく暖かに包んでこられたことか。法学部の明るい伝統は先生の哄笑に負うところ大であります。

秋山先生のますますのご健康をお祈りし、感謝の念をこめて、この論集を献げます。

一九七八年九月

藤 倉 皓 一 郎

法 学 部 長